

臼井屋敷跡遺跡・吉見城跡

— 中世屋敷の空間利用 —

調査課長補佐 寺里和久

はじめに

臼井屋敷跡遺跡は、中世の台地整形区画、土塁、地下式坑、土坑、道路跡が検出された。また、縄文時代後期、弥生時代中期、奈良・平安時代の集落も確認され複数の時代が混在する遺跡である。臼井屋敷跡遺跡に隣接する吉見城跡は、城郭の一部の調査を実施し、土塁、空堀、地下式坑、台地整形区画等が確認できた。

ここでは、臼井屋敷の名称の所以となる中世の遺構について説明する。

遺跡の立地と周辺の遺跡

臼井屋敷跡遺跡及び吉見城跡は、下総台地のほぼ中央、印旛沼の南岸に所在し、鹿島川と手繰川によって開析された標高約 30m の台地上に立地する。台地西側には単郭構造をとる^{おぶかいやかた}生谷館跡や^{おぶかい}生谷^{やしきあと}屋敷跡、北側には 13 世紀後半から 15 世紀にかけての地下式坑や土坑墓群が検出され、多数の武蔵型板碑が出土した^{まのだい}間野台・^{ふるやしき}古屋敷遺跡や単郭構造の^{いじゅうじょう}飯重城跡が展開する。さらに印旛沼に面した台地上には、大規模な惣構構造を形成し戦国時代前半期は臼井氏、後半期は原氏・酒井氏の居城として慶長 9 年（1604）の廃城まで栄えた^{うすいじょう}臼井城跡が所在し、当地域でも重要な拠点として機能した。

臼井屋敷跡遺跡と吉見城跡の調査概要

臼井屋敷跡遺跡第 10 次調査地点では西側に舌状に張り出した台地の基部に屋敷の主区画とされる一辺 25～30m の方形に掘り込まれその周囲を高さ 1m ほどの土塁で囲まれた区画が存在した。主区画

の南側には地山を削り平坦に整形した部分が確認でき、門跡を伴う虎口と思われる。区画内部には天井を持つ主室に入口となる縦坑を伴う 6 基の地下式坑が配される。明確な建物跡は確認されていない。また、主区画の西側には堀切を挟んで平場が存在する。土塁等の痕跡は確認できず明確に区画されていない。検出された遺構は小規模な土坑、室状の土坑、小ピットが主であり、主区画同様、建物跡は確認できなかった。しかし、いずれも小ピットが多数検出されていることから、簡易な建物が建てられていた可能性も考えられる。

第 2 次調査地点は、第 7 次調査によって検出された道路の西側に面する。200 基を超える土坑、小ピットが検出され、溝状遺構あるいは柵列によっていくつかの区画に区分されているようであるが、建物跡は検出されていない。

第 4 次調査地点では、幅 5m 以上、長さ 50m を越える大規模に整形された平場が検出されている。明確な建物跡は検出されていないが、小ピットが多数検出されていることから、簡易な建物が建てられていたことが推定できる。また、北側には道路側に張り出した部分に 6 基の地下式坑が作られた区画を有している。第 10 次調査地点で検出された地下式坑と異なり、斜面を利用して横から入れるよう階段状の入口を有している。

第 5 次 2 区及び第 6 次調査地点では、第 7 次調査地点で検出された道路に沿って、道路面よりも一段高い位置より台地整形区画が検出されている。

区画の縁辺に沿うように溝が巡っており、虎口と思われる切れ目が確認できる。その内側からは土坑、方形竪穴状遺構が検出されている。

第7次調査では、現在の道路とほぼ並行するように道路状遺構が検出され、吉見城跡を通過して南へ延びていることが確認できた。道路状遺構は楕円形の土坑がほぼ等間隔で枕木状に並んで検出された。小礫等を充填した痕跡は確認できなかったが、凹面の含土は硬く締められている。

いずれの地点も出土遺物は少量である。13～15世紀代の播鉢、かわらけ、青磁碗、縁釉皿、香炉、片口鉢、壺、茶入れ等の生活雑器が主体である。

吉見城跡では、その一部とされる西端の二重土塁や空堀、平坦部の調査を行い地下式坑、建物跡、土坑、溝状遺構を検出している。土塁自体は、16世紀代の構築と考えられ、3度の拡張・補修がなされたと推測される。遺物は13世紀後半から15世紀代の甕、瓶子、皿、瓦質香炉、火鉢等が出土しており、土塁構築以前にも城として機能していたことが窺える。これは白井屋敷跡と時期的に重なるものであり、両者の関係性が重要視される。

第2次調査では西端より同城に伴うと思われる柵列を伴う溝状遺構が検出されている。また、地下式坑4基と大規模な台地整形区画が検出されている。台地整形区画内からは柱穴が多数検出され、7棟の建物跡を組むことができた。遺物は播鉢、内耳鍋、かわらけ、染付け碗などが出土しているが、これらは18～19世紀代のものが主であり、検出された建物跡もこの時期のものと思われる。

屋敷地の空間利用

屋敷は主屋（おもや）をはじめ生活や生産に必要な諸施設によって構成される。構成する施設としては、主屋の他に厩や作業場、倉庫、また墓地などが上げられ、これらの諸施設は地形の造成などを行いながら機能的に配される。

白井屋敷跡遺跡の場合、主区画と考えられてい

る第10次調査地点の土塁に囲まれた部分においては、明確な建物跡は検出されていない。しかし、他の場所と異なり、土塁によって明確に区画されていること、入口となる虎口を有していること、倉庫として使用されたであろう地下式坑が多数検出されていること、井戸が検出されていること、また出土している遺物が少量ではあるが、生活雑器が主体となっていることから、柱穴を持たない簡易な建物が存在していたことは想定できる。以上から、この区画が主屋を有した居住空間であった可能性は否定できない。

堀切を挟んだ西側の平場においても多数の小ピットは検出されているものの明確な建物跡は確認できなかった。合わせて第2次調査区においても200基を越える土坑、小ピットが検出されているものの建物跡は確認できなかった。このことから、道路から西側の舌状に張り出す台地上の広い範囲は、居住空間に隣接し倉庫などが立ち並ぶ貯蔵施設、あるいは墓域であることが想定される。

第4次調査地点は大規模な台地整形区画によって平場が形成されている。この平場は曲輪状を呈し、1段だけではなく台地下の水田面から同様の曲輪状の平場が数段構築されていることが現況からも確認できる。平場から検出されたピットは貧弱なものであり、また硬化面等も確認できていないことから、居住空間としては考えにくい。倉庫等に使用されたと思われる地下式坑や井戸が検出され、また水田が広がる谷津頭に面していることから、稲作等に伴う生産のための施設あるいは作業場として使用されていたのではないだろうか。

第5次2区調査地点では、建物跡は検出されていないが、台地整形区画が道路に隣接し平行して構築され、また道路よりも一段高く構築されている。また、虎口と思われる溝の切れ目が存在することから、他の区画とは明らかに異なっている。これらの点から、建物跡は検出されていないもの

の、屋敷の区画の一つとして機能していたことが考えられる。

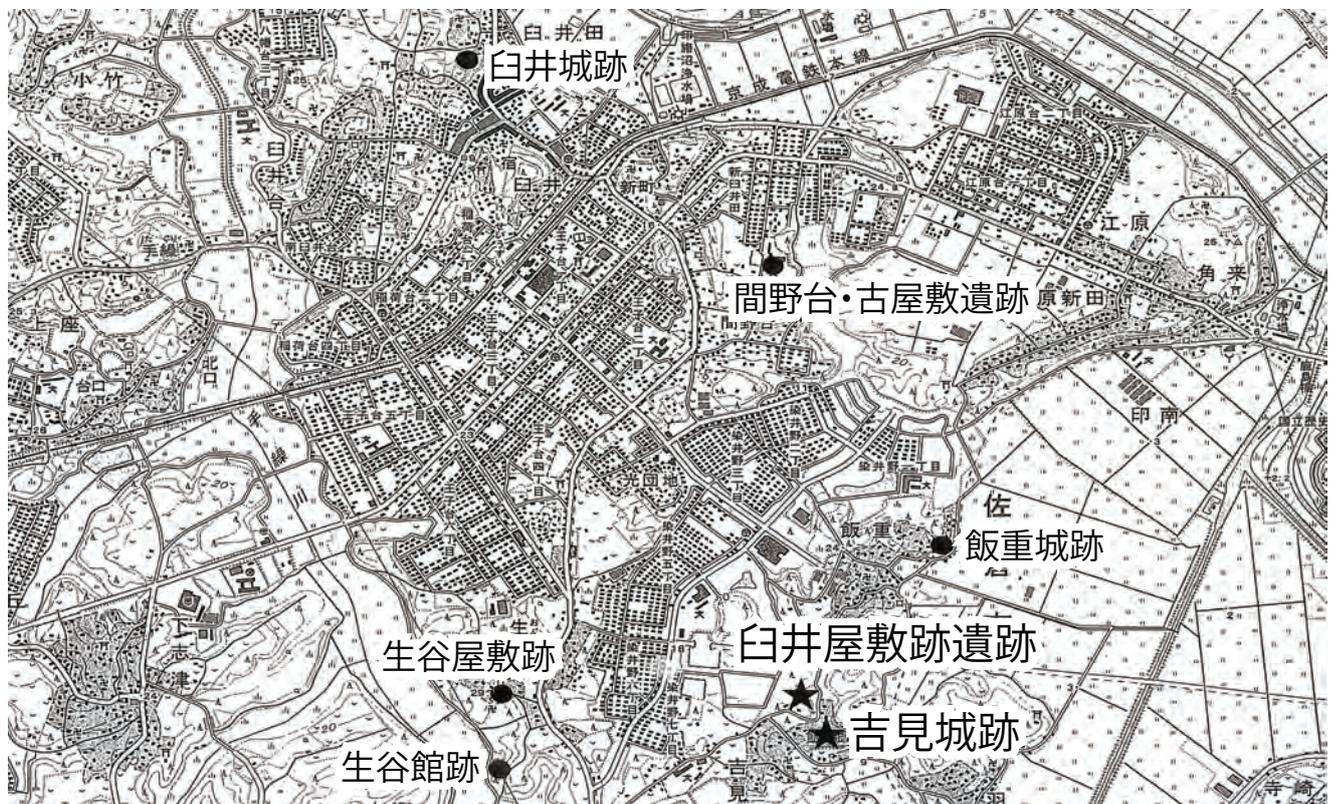
まとめ

白井屋敷跡遺跡、吉見城跡では15世紀以前の遺構は検出されていない。周辺においても集約的な拠点といえる城館は整えられてはいなかったと思われる。しかし、13世紀代からの生活雑器が出土していることから、農民の生活・生産の場が点在していたと推定され、それらを白井氏が統括していたと思われる。周辺で15世紀以前の遺構、遺物が検出された遺跡は間野台・古屋敷遺跡などに限られる。また、鹿島川と手繰川に挟まれた台地上であり、白井城から延びる主要な街道に沿って立地していることから、間野台・古屋敷遺跡と同様に白井氏を支える拠点の一つだったのではないだろうか。

中世の出土遺物は稀少ではあるが、その中でも15世紀代のものが主体となる。その時期は、下総

地域においても戦が頻発するようになり、文明9年(1479)には太田資長(道灌)、永禄9年(1566)には上杉謙信によって白井城は攻められる。しかし、本佐倉城の千葉氏にとって白井城は防衛の要であり、白井氏・原氏によって白井城の改築・整備が行われ、それに伴い周辺の城館を含め白井屋敷・吉見城も築城されたのではないだろうか。そして、屋敷・城としてのピークとなるのは15世紀後半頃からではないだろうか。

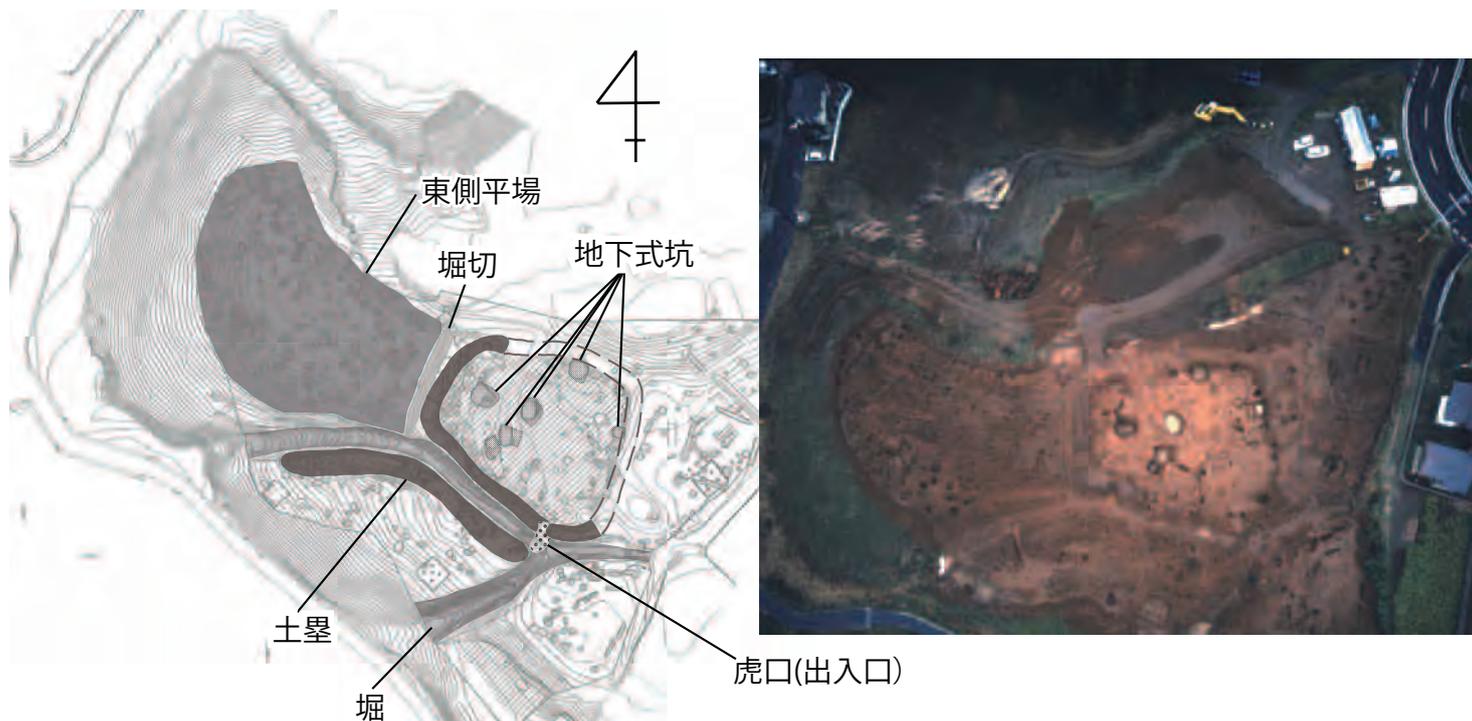
さらに吉見城跡第2次調査において検出された台地整形区画内からは、複数棟の建物跡が検出されている。しかし、出土した遺物は19世紀代のものが主体であり、検出された建物跡もその時期に該当する。台地整形区画の土層断面からは幾重にも重なった硬化面が確認でき、連綿と人々が生活してきた痕跡が窺える。白井屋敷及び吉見城の廃城後、近世以降もその地形を利用し、そして現在に至るまで利用され続けてきたのであろう。



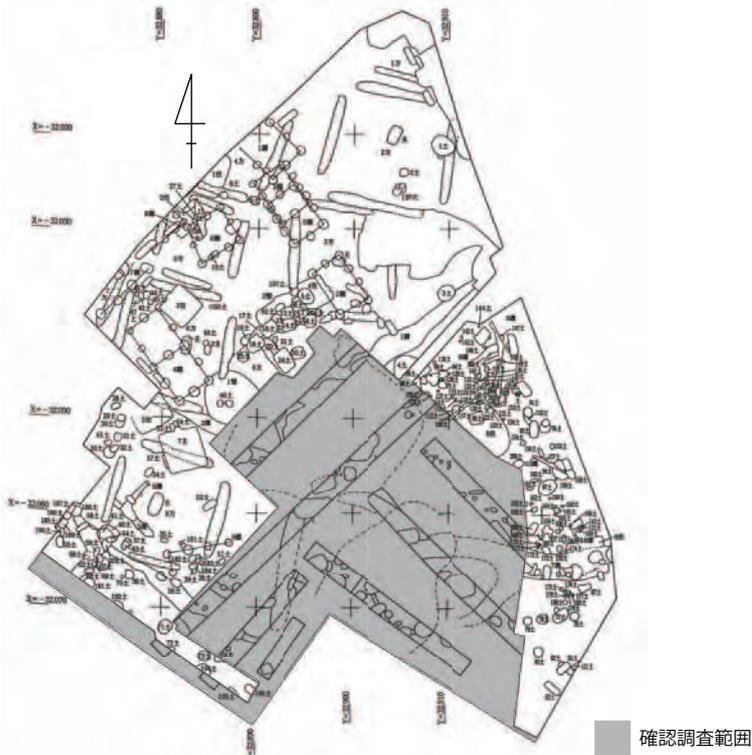
第1図 周辺の遺跡(S = 1 / 25,000)



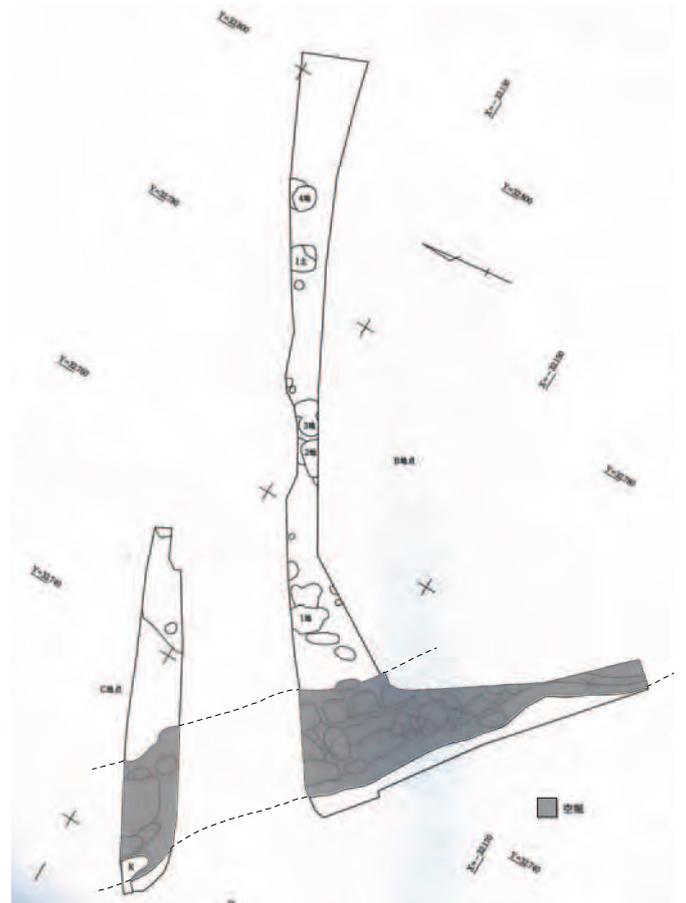
第2図 白井屋敷跡遺跡・吉見城跡調査地点 (S = 1 / 2,500)



第3図 白井屋敷跡遺跡第10次調査地点 (S = 1 / 1,250)



第4図 白井屋敷跡遺跡第2次調査地点(S = 1 / 800)



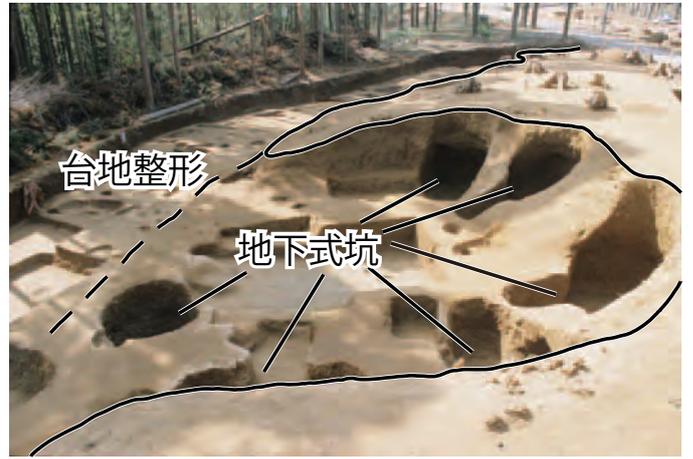
第5図 吉見城跡(第2次) 柵列を伴う溝状遺構(S = 1 / 400)



第6図 白井屋敷跡の空間利用想定図(S = 1 / 3,000)



白井屋敷跡遺跡(第4次) 全景



白井屋敷跡遺跡(第4次)検出 地下式坑群



白井屋敷跡遺跡(第5次)2区 全景



白井屋敷跡遺跡(第5次)2区 近接



白井屋敷跡遺跡(第7次)道路状遺構



吉見城跡(第1次) 全景



吉見城跡(第2次)柵列を伴う溝状遺構



吉見城跡(第2次)台地整形区画